TÍNH TỪ TRONG TIẾNG NHẬT VÀ TIẾNG VIỆT NHÌN TỪ GÓC ĐỘ NGÔN NGỮ HỌC TRI NHẬN

Nghiêm Hồng Vân*

Ngôn ngữ học tri nhận là một trường phái ngôn ngữ học vận dụng kiến thức liên ngành, nghiên cứu ngôn ngữ trên cơ sở vốn kinh nghiệm và sự cảm thụ của con người về thế giới khách quan cũng như phương thức mà con người tri giác về thế giới khách quan đó. Hiện nay, những vấn đề liên quan đến ngôn ngữ học tri nhận đang là một hướng nghiên cứu rất thịnh hành, thu hút được sự quan tâm của nhiều nhà nghiên cứu. Trong bài viết này, chúng tôi trình bày một số khái niệm cơ bản trong ngôn ngữ học tri nhận như: phạm trù, phạm trù hóa, điển mẫu, không điển mẫu. Từ đó chúng tôi chỉ ra những tương đồng và khác biệt về phạm trù tính từ trong tiếng Nhật và tiếng Việt cũng như yếu tố quyết định các điển mẫu trong phạm trù này ở hai thứ tiếng.

Từ khóa: *Ngôn ngữ học tri nhận, phạm trù, phạm trù hóa, điển mẫu, tính từ.*

Cognitive linguistics is an interdisciplinary branch of linguistics that studies language on the basis of human experience and perceptions of the objective world. Nowadays, issues related to cognitive linguistics have attracted much attention from many researchers. This article presents some basic concepts in cognitive linguistics, such as category, categorization and prototype. It then points out similarities and differences between adjectives in Japanese and Vietnamese language as well as factors forming prototypes of this category in the two languages.

Keywords: *cognitive linguistics, category, categorization, prototype, adjectives.*

認知言語学の観点から見た日本語・ベトナム語の形容詞というカテゴリー

1. はじめに

形容詞のカテゴリーとはどんなものか、それはどのような基準でなされるか、という問題は世界の言語研究者の注目を集めてきている。意味の観点から見ると、どの言語においても「形容詞は事物の性質、状態または心情、感情などを表す」といった定義がされるが、形式特徴及び文法特徴の観点から見ると、全ての言語に当てはまる形容詞の規定をそれほど簡単に且つ規律的に定められない。形態的類型が異なる言語は異なる定義をするだろう。具体的に言うと、孤立語であるベトナム語と膠着語である日本語は形態的に大きく異なる特徴が見られ、すなわち語形変化が存在する日本語と語形変化が存在しないベトナム語は形式特徴及び文法特徴の面において同じ形容詞の定義を有すると断言できない。また、日本語では、語形変化及びある形態素を付け加えることにより形容詞の中心メンバーと周辺メンバーを見分けることができるが、それらの要素がないベトナム語では形容詞のプロトタイプを一体どのような基準で理解されるだろう。

*** TS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội**

Email: xiu.baochau@gmail.com

そこで、本稿では、認知言語学の基本概念に触れながら、日本語の形容詞とベトナム語の形容詞は形式特徴及び文法特徴の面においてどのように扱われているか、また形容詞のプロトタイプを決定する要素は両言語においてどのように異なるかを見てみたい。

2. 本稿で扱われる概念と定義

人間の認知能力から言語現象を体系的に記述し、説明する研究領域をいう認知言語学は、生成文法と並んで現代言語学の二大潮流をなす。認知言語学は、「言葉の形式には言葉の意味が反映されており、意味と独立に形式だけを研究したのでは、言葉の本質を捉えることはできない」と主張する。あらゆる言語表現には私たちの世界への見方が反映されているが、その全体像を一貫した立場で明らかにしている言語理論は認知言語学が登場するまで存在しなかったと言えよう。本節では、本稿で扱われる認知言語学の主要な考え方である「カテゴリー」、「カテゴリー化」、「典型的なメンバー（プロトタイプ）」、「非典型的なメンバー」と形容詞の定義を大堀（2002）、西村（2013）、益岡（2008）と森山（2008）を参考にまとめておく。

2.1. カテゴリーとカテゴリー化

形容詞「固い」の意味を聞かれたら、何と答えるだろうか。多くの人が最初に思い浮かべる「固い」のイメージは、「外力に対する抵抗力が大きく、容易に形を崩さない」ことだろう。益岡（2008）を見てみると（1）（2）のような例はもちろん挙がっているが、（3）（4）（5）も見つかった。

（1）このすじ肉は固くて食べられない。

（2）彼は筋肉が固くて、前屈ができない。

（3）固くて短い帯はきれいじゃない。

（4）彼女は口が固い。

（5）彼は頭が固い。

上記の例文を含めて考えると、「固い」の意味を単なる「外力に対する抵抗力が大きく、容易に形を崩さない」とは言いづらくなる。これは、「固い」の意味カテゴリーをどのように記述するかという問題である。人間は、知識を単にばらばらに蓄えているわけではなく、何らかのグループにまとめている。そのグループを「カテゴリー」（category）と言い、グループにまとめることをカテゴリー化と言う。言い換えると、カテゴリー化とは、「様々なモノやコトを、必要に応じて何らかの観点から整理・分類すること」であり、カテゴリーとは、「カテゴリー化の結果作り出された一つのまとまり」である。

2.2. 典型的なメンバー（プロトタイプ）と非典型的なメンバー

カテゴリーについては古くから研究されてきたが、「一つのカテゴリーに属する成員には、そのすべてが共通に持ち、その成員だけが持っている特性があるはずだ（西村 2013、P.66）」という古典的なカテゴリー観があった。このようなカテゴリー観に従って、前節のの「固い」について考えてみよう。「固い」の意味カテゴリーに含まれる成員はすべて「外力に対する抵抗力が大きく、容易に形を崩さない」という属性をもっていると考

えれば、(1)～(3)のすべての用法を偏りなく扱うことができる。(1) では 「すじ肉 」を 噛み切るのに抵抗 が大きいこと、(2) (3) では 「 筋肉、 帯」が硬くて曲 げる、伸ばす のに抵抗が大きいことが意味される。しかし、「固い」の意味を「外力に対する抵抗力が大きく、容易に形を崩さない」とだけ提示してしまうと、今度は (4) と (5) の「固い」イメージとはだいぶ離れてしまうだろう。(4) の場合、言うべきでないことをむやみに他言しない。(5) の場合、柔軟な考え方ができず、頑固な考え方をする。従って 、(4) の意味は「彼女はなかなか口を開かない。」であり、(5) の意味は「彼は自由な感じや、やわらかな感じに欠けた。」ことをいう。

認知言語学では、カテゴリーをもっと柔軟なものであると考えている。あるカテゴリーの成員がどれも同じだけの資格をもっているわけではなく、もっともそれらしい、中心的な成員から、あまりそれらしくない、周辺的な成員があるとするカテゴリー観を採用するのである。中心的、代表的な成員のことを「典型的なメンバー（プロトタイプ：prototype）」、周辺的な成員のことを「非典型的なメンバー」と呼ぶ。カテゴリーがそのように構造化されていると想定すると、「固い」の意味のカテゴリーにはプロトタイプ「外力に対する抵抗力が大きい」を中心に、周辺的な成員「言うべきでないことをむやみに他言することに対する抵抗感がある」「柔軟な考え方・やり取りに対する抵抗感がある」までの段階性があることを捉えることができる。

2.3. 形容詞

2.3.1. 日本語の形容詞

益岡（2008）では、形容詞は「何らかの状態を表し、述語の働き（例：この地域は寒い。）と名詞の修飾語の働き（例：寒い地域）をする。また、文中での働きの違いに応じて、活用する」と定義した。

形容詞が表す状態には、ヒトやモノの属性（性質や特徴）の場合と、人の感情・感覚の場合がある。「強い」「長い」「勤勉だ」「高価だ」などは属性を表し、「ほしい」「懐かしい」「かゆい」「いやだ」などは感情・感覚を表す。これらの形容詞を、それぞれ「属性形容詞」、「感情形容詞」という。なお、感情形容詞は、場合によっては属性形容詞として用いられることがある。この場合、人の感情・感覚を引き起こすものの属性が問題にされる。（例：水虫はかゆい。／トラは恐ろしい。）

形容詞を形態の面から分類すると、「寒い」「強い」「ほしい」のように、名詞を修飾する場合「～イ」という形で表されるもの（例：寒い地域）と、「勤勉だ」「高価だ」「いやだ」のように、名詞を修飾する場合に「～ナ」という形で表されるもの（例：勤勉な人）に分かれる。これらを、それぞれ「イ形容詞」、「ナ形容詞」と呼ぶ。

形容詞の語幹は、イ形容詞とナ形容詞について、それぞれ 1 つしかない。すなわち、イ形容詞は、基本的な形から「い」を除いたものが語幹である。例えば、「寒い」の語幹は「寒」である。ナ

形容詞は、基本的な形から「だ」を除いたものが語幹である。例えば、「勤勉だ」の語幹は「勤勉」である。

日本の形容詞の機能は名詞を修飾する、単独で述語になる、連用形が副詞のように用言を修飾することである。

2.3.2. ベトナム語の形容詞

Diep Quang Ban (2006) は「形容詞は、人・動物・物・植物等の物事、あるいは社会現象・生活における現象等の現象の性質・特徴・状態を表す[1]」と定義している。

物事の特徴を表す形容詞には、「高い」「低い」「広い」「狭い」「青い」「赤い」などが挙げられる。つまり、この種の形容詞は五感で感じることのできる物事の外見的特徴（色・形・音などに関する特徴）を表すものである。

物事の性質を表す形容詞には、「良い」「悪い」「まじめな」「勤勉な」「深い」「根強い」などが挙げられる。つまり、この種の形容詞は五感ではなく、観察・付き合い・推論といった過程を通じて初めて分かってきた物事の中身の特徴（人の性格・心理、物の価値などに関する特徴）を表すものである。

物事の状態を表す形容詞は、ある期間内の物事の存在状態を表すものである。例えば、「ここは静かだ」、「今日の日差しがまぶしい」などである。

ベトナムの形容詞の機能は日本のと同じように名詞を修飾する、単独で述語になる、また動詞の後ろに付き、副詞として使われることである。

3. 日本語とベトナム語の形容詞の文法特徴と形式特徴

3.1. 文法特徴

まず、文法特徴の観点から見てみよう。形容詞の文法特徴は日本語では単独で述語になる、時制が直接表されるという点で動詞に近いといわれる。

(6) 彼女は細い。

(7) 昨日の映画は面白かった。

それに対し、「ベトナム語の形容詞の文法特徴は文中の補助の役割を果たし、他の品詞と比べ文法的な役割が制限されている」[2]と Hoang Van Hanh(1998)に述べてある。Hoang Van Hanh が主張したベトナム語の形容詞の文法特徴は例 8、9 の通りであり、つまり名詞句、動詞句の主要部の修飾の役割を果たすのである。

[1] 原文はベトナム語、訳は筆者

[2] 原文はベトナム語、訳は筆者

（8） Cô gái gầy đứng đằng kia[3] là bạn gái của anh trai tôi.
女の人 細い 立つ あそこ は ガールフレンド の 兄 私

➞ あそこに立っている女の人は兄の彼女です。

（9）Thầy giáo giảng bài nhanh[4].
先生 説明する 早い

➞先生は早く説明した。

しかし、実際の例文を見てみると、ベトナム語において単独で述語になる形容詞は数多くある（例 10）。この役割は動詞のと全く同じである。

（10） Cô ấy gầy lắm.
彼女 細い とても

➞彼女はとても細い。

また、時制に関しても動詞と同じ性質が見られる。つまり、テンスがなく、文脈や場面、時間副詞等によって時制が理解される。例 7 をベトナム語に直すと例 11 になる。

（11）Bộ phim hôm qua hay.
映画 昨日 面白い

仮にテンスを表そうとすると「đã、 từng、 đã từng...」などの助動詞相当表現を使用する。基本的には助動詞相当表現は動詞と形容詞に先行する。

（12）Lúc trước bố tôi đã / từng / đã từng nghiêm khắc.
以前 父 私 過去を表す助動詞相当表現 厳しい

➞以前父は厳しかった。

以上のことから、ベトナム語の形容詞は日本語の形容詞と同じように動詞に近いものだと扱われていると言える。なお、ベトナム語では、一語を形容詞であるか動詞であるかを区別するには、その語の前に「hãy, đừng, chớ」という命令形を表す助動詞相当表現を付け、使用可能な場合は、動詞であり、使用不可の場合は形容詞であるという判断の手段がある。

3.2. 形式特徴

次に日本語及びベトナム語の形容詞の形式特徴を見てみよう。日本語の形容詞は形式の面から見ると形容詞（例：白い、黒い）と形容動詞（例：静かな、にぎやかな）と大きく二つに分けられる。他に「的」などによる派生語（例：経済的）と修飾用法で「の」をとる語（例：絶好、最高）もある。形容詞は終止形語尾が口語では「い」、文語では「し」で表現され、形容動詞は終止形語尾が口語では「だ」、文語では「なり」「たり」で表現される。「的」などによる派生語（経済的）は形容動詞と同じような活用をする。修飾用法で「の」をとる語（例：絶好、最高）は形容動詞と殆ど同じような活用をするが、名詞の修飾用法では「な」ではなく「の」をとることになる。

[3] 下線を付したのは名詞句
[4] 下線を付したのは動詞句

この派生語と修飾用法で「の」をとる語の殆どは漢語である。

これに対し、ベトナム語の形容詞の形式特徴は何もないと言える。理由はこれまで述べてきたようにベトナム語の大きな特徴は語形変化は存在しないからである。そのため、この面から見れば、ベトナム語は日本語と対照できる対象ではないと思われる。

4. 日本語とベトナム語の形容詞のプロトタイプ

ここで両言語において形容詞のプロトタイプはどのような基準で認定されるかを考察したい。日本語の場合、形式特徴は形容詞プロトタイプを認定するための有効な手段となると言えよう。「い」形容詞活用をするものは最も中心メンバーであり、「な」形容動詞活用をするものはやや中心メンバーと認められるが、「的」などによる派生語や修飾用法で「の」をとる語「灼熱」「絶好」のような語は周辺メンバーである。しかも、同じ「い」形容詞活用をするものの中でも、ある形態素を付け加えることにより更に中心メンバーと周辺メンバーが分けられる。試みに、日本語の色彩語彙について、中心メンバーと周辺メンバーの違いを見ることにしよう。まず、基本色のうち、主要なものは形容詞活用を持つ、「白い」「黒い」「赤い」「青い」が中心メンバーに当たる。「黄色い」「茶色い」も形容詞活用だが、「色」という形態素を付け加えることが必要である。そして、周辺例になると、「*灰色い」のように形容詞活用はできず、「～な」による形容動詞活用か「～の」による修飾となる。このように、日本語では基本色「白い」「黒い」「赤い」「青い」は形容詞として典型と言え、つまり形容詞の中心メンバーと認められる。基本色から外れ、形容詞活用はしない「*灰色い」や「*紫色い」、形容詞活用だが、ある形態素を付け加える必要がある「黄色い」や「茶色い」は形容詞として典型と言えず、つまり形容詞の周辺メンバーとして分類される。

では、形式特徴のないベトナム語の形容詞においては、中心メンバー及び周辺メンバーというものがあるだろうか。あるとすれば、どのように分けられるか。このような場合には孤立語であるベトナム語や中国語などは意味特徴を利用するしかないと考えられる。

4.1. ベトナム語の形容詞の典型的なメンバー

ベトナム語の形容詞らしいものは、「①その反対の意味を有する形容詞が存在し、一対の形容詞を成すか、②“hãy, đừng, chớ”という命令形を表す助動詞相当表現が先行可能か」の二つの特徴を有しているものであることを、Diep Quang Ban（2006）と Hoang Van Hanh（1998）が主張している。

- 品質、性質を表す形容詞：tốt (良い)、xấu (悪い)、xấu (醜い)、xinh (美しい)、hiền lành (やさしい)、nghiêm khắc (厳しい)、dũng cảm (勇敢な)、hèn nhát (臆病な)...

- 量の特徴を表す形容詞：nhiều (多い)、ít (少ない)、cao (高い)、thấp (低い)、dài (長い)、ngắn (短い)、rộng (広い)、hẹp (狭い)...

- 強度の特徴を表す形容詞：mạnh (強い)、yếu (弱い)、nóng (暑い)、lạnh (寒い)、sáng (明るい)、tối (暗い)、mát mẻ (涼しい)、ấm áp (暖かい)...

- 人間の身体及びものの形の特徴を表す形容詞：béo (太い)、gầy (細い)、vuông (四角い)、tròn (丸い)、thẳng (真っ直ぐな)、cong (曲がった)...
- 色の特徴を表す形容詞：xanh (青い)、đỏ (赤い)、trắng (白い)、đen (黒い)、hồng (ピンク)、tím (紫)、nâu (茶色)...
- 音の特徴を表す形容詞：to (大きい)、nhỏ (小さい)、yên tĩnh (静かな)、náo nhiệt (にぎやかな)、ầm ĩ(うるさい) ...
- 味の特徴を表す形容詞：chua (すっぱい)、ngọt (甘い)、cay (唐辛子の辛い)、mặn (塩辛い)、chát (渋い)、nhạt (薄い)、mặn (濃い)...

以上の形容詞はいずれも自らと反対の意味を有する形容詞と一対の形容詞をなす。また命令を表す「hãy, đừng, chớ」などの命令形を表す助動詞相当表現がその形容詞に先行することができないことは意味特徴と合わせることにより、その形容詞が中心メンバーと認められる。

4.2. ベトナム語の形容詞の非典型的ンメンバー

以上の形容詞と異なり、元々名詞や動詞からできた派生語は形容詞の周辺メンバーであろう。

4.2.1. 名詞からの派生語

4.2.1.1. 独特な特徴、色、性質などを有する人、動詞、事物を表す名詞はその特徴を表す形容詞として使用される場合

表 1：名詞からの派生語①

Gấu	名：熊	Trong sở thú có gấu. 中 動物園 いる/ある 熊 ➞動物園の中に熊がいる。
	形：乱暴な、荒っぽい	Thằng đấy gấu lắm. あいつ 乱暴 とても ➞あいつはとても乱暴だ。
Quê	名：田舎、故郷	Quê anh ở đâu? 故郷 あなた で/に どこ ➞故郷はどちらですか。
	形：田舎っぽい	Cô ấy ăn mặc quê. 彼女 着用する 田舎っぽい ➞彼女は田舎っぽい着方をしている。
Du côn	名：ならず者	Dạo này bọn du côn nhiều quá.（感嘆文） このごろ 類別詞 ならず者 多い 感嘆語 ➞このごろならず者が多いね。
	形：素行が悪い	Đừng tỏ thái độ du côn. 命令を表す表現 表す 態度 素行が悪い ➞素行が悪い態度をしないでください。

他には、dê （名：山羊、形：女たらしの）、anh hùng （名：英雄、形：勇敢な）、muỗi（名：蚊、形：大したものではない）、 bác học（名：物知り博士、形：何でも知る）などがある。これらの形容詞の特徴は、その反対の意味を有する形容詞が存在していないが、「hãy, đừng, chớ」の命令形を表す助動詞相当表現先行することができるということである。

4.2.1.2. 独特な特徴及び役割を果たす人間の体の部分を表す名詞は人間の性格、心理、能力を表す形容詞として使用される場合

表 2：名詞からの派生語②

Gan	名：肝	Ung thư gan （名詞句） 癌 肝 ➞肝臓癌
	形：大胆な、勇敢な	Đứa bé đó mới 5 tuổi nhưng rất gan. 子 あの まだ 五歳 でも とても 勇敢 ➞あの子はまだ五歳だが大変勇敢だ。
Đầu óc	名：頭、頭脳	Đầu óc rối bời. 頭脳 混乱する ➞頭が混乱している。
	形：頭がいい	Người đầu óc như anh ta không nhiều. 人 頭がいい 同様 彼 否定語 多い ➞彼のような頭がいい人は多くない。
Mồm mép	名：口	Ăn xong phải lau mồm mép. 食べる 終わる 義務を表す表現 拭く 口 ➞食べ終わったら口を拭かなければならない。
	形：口が上手な	Tôi không thích những người mồm mép. 私 否定を表す表現 好き 複数を表す表現 人 口が上手 ➞口が上手な人が好きではない。

この類の派生形容詞の数は限られている。また、その反対の意味を有する形容詞が存在していないが、「hãy, đừng, chớ」の命令形を表す助動詞相当表現先行することができるという特徴がある。

4.2.1.3.客観的な世界や社会生活における現象、状態に関する概念、観点の名前を表す名詞はその現象、状態の性質を表す形容詞として使用される場合

表 3：名詞からの派生語③

Hạnh phúc	名：幸福	Hạnh phúc là cái mọi người tìm kiếm. 幸福 Be もの 人々 求める ➞幸福は人々が求めるものだ。
	形：幸福な、幸せな	Sau này tôi muốn sống một cuộc sống hạnh phúc. 将来 私 望みを表す表現 暮らす 一 生活 幸せな ➞将来、幸せな生活を送りたい。
Kinh tế	名：経済	Kinh tế thế giới đang xấu đi. 経済 世界 進行を表す表現 悪化する ➞世界の経済は悪化している。
	形：経済的	Phải đề cao hiệu quả kinh tế. 義務を表す表現 重視する 効果 経済的 ➞経済的な効果を重視なければならない。
Hiệu quả	名：効果	Phải đề cao hiệu quả kinh tế. 義務を表す表現 重視する 効果 経済的 ➞経済的な効果を重視なければならない。
	形：効果的	Nhân viên của tôi làm việc hiệu quả. スタッフ 所有を表す表現 私 仕事をする 効果的 ➞私のスタッフは効果的に仕事をしている。

Mốt（名：ファッション、形：ファッション的）、Hòa bình（名：平和、形：平和な）、Khoa học（名：科学、形：科学的）など派生形容詞もこのグループに属する。面白いことに、ここでベトナム語と日本語の共通点が見られる。この意味を表す日本語の形容詞の多くは元々漢語の形容詞で、「的」による派生語（例：経済的、科学的、効果的...）である。これらの形容詞の特徴は、その反対

の意味を有する形容詞も存在していないし、「hãy, đừng, chớ」の命令形を表す助動詞相当表現先行することもできないということである。

以上の名詞からの派生形容詞の共通点はその反対の意味を有する言葉がない。これは中心メンバーの条件を満たさないので、周辺メンバーと見なされるが、より詳しく見ると、4.2.1.3 の派生形容詞は「hãy, đừng, chớ」と一緒に使用できないのに対し、4.2.1.1 と 4.2.1.2 の派生形容詞は「hãy, đừng, chớ」と一緒に使用することが許されるので、4.2.1.3 のものと比べるとより周辺メンバーと言えよう。

4.2.2. 動詞からの派生語

活動、感覚、心の状態を表す動詞はその活動、感覚、心の状態の属性、性質を表す形容詞として使用される場合

表 4：動詞からの派生語

Chán	動：飽きる	Tôi chán ăn cơm. 私 飽きる 食べる ご飯 ➞ご飯を飽きている。
	形：つまらない	Bộ phim chán đó là của nước nào thế? 映画 つまらない あの Be 所有を表す表現 どこの国 疑問詞 ➞あのつまらない映画はどこの国のですか。
Diện	動：着る、履く、粧す	Cô ấy diện một cái váy trắng. 彼女 着る 一 類別詞 ワンピス 白い ➞彼女は白いワンピスを着ている。
	形：おしゃれな	Cô ấy ăn mặc diện 彼女 着用する おしゃれな ➞彼女はおしゃれに着用する。

他には、Khêu gợi（動：惹起する、形：魅力的）、Căng（動：張る、形：緊張とした）などの動詞からできた形容詞がある。

動詞からできた形容詞であるため、単独で述語になる場合はそれは形容詞なのか、動詞なのかは疑問である。一般的には動詞だと認定されるため、名詞句や動詞句の主要部の修飾の役割を果たしてはじめて形容詞だと見なされる。また、こ

れらの形容詞の特徴は、その反対の意味を有する形容詞も存在していないし、元々動詞なので、「hãy, đừng, chớ」がその前に先行することが当然できることから、名詞からの派生形容詞よりも周辺メンバーであろう。

おわりに

本稿では、認知言語学の基本概念に触れながら、日本語の形容詞とベトナム語の形容詞は形式特徴及び文法特徴の面においてどのように扱われているか、また形容詞のプロトタイプを決定する要素は両言語においてどのように異なるかを考察した。その結果、文法特徴の観点から見ると、日本語でもベトナム語でも「形容詞は単独で述語になり、動詞に近い」と言われるが、日本語の形容詞は時制が直接表されるのに対し、ベトナム語の形容詞は直接表されず、その文脈や場面、時間副詞などによって時制が決定されるのである。形式特徴の観点から見ると、日本語の形容詞は活用が豊かであるのに対し、語形変化が存在していないベトナム語の形容詞は日本語のと対照できる対象ではないことが明らかになった。また、両言語において形容詞のプロトタイプはどのような基準で認定されるかを考察した結果、日本語の場合、形式特徴は形容詞プロトタイプを認定するための有効な手段であるのに対し、孤立語であるベトナム語の場合は、意味特徴は形容詞プロトタイプを認定するための有効な手段となることが明らかになった。

カテゴリーやプロトタイプという概念を言語学をはじめ品詞論に応用することはベトナムの言語学においてまだ新たな分野とも言え、参考文献は殆どない。以上述べてきたものはあくまで個人の思考によるものなので、形式は恣意的で、内容に乏しいことは否めない。今後さらなる研究を行っていきたい。また、三節で少し述べたように、日本語の形容詞のカテゴリーの中にも、派生形容詞が存在し、形式で「的」か「の」により区別することはできるが、意味により区別することができるかどうかは興味深いことで、その答えを探ってみたい。

参考文献

1. 大堀壽夫 (2002).『認知言語学』. 東京大学出版会.

2. 早瀬 尚子, 堀田 優子 (2005). 『認知文法の新展開 - カテゴリー化と用法基盤モデル』. 研究社.

3. 西村義樹, 野矢茂樹 (2013) .『言語学の教室』.中央公論新社.

4. 益岡隆志, 田窪行則 (2008). 『基礎日本語文法』.くろしお出版.

5. 森山 新(2008) .『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得－日本語教育に生かすために』. ひつじ書房.

6. Diệp Quang Ban, Hoang Van Thung (2006). *Ngữ pháp tiếng Việt I*. Hà Nội. NXB Giáo dục.

7. Hoàng Văn Hành (1998). *Từ tiếng Việt*. Hà Nội. NXB Khoa học xã hội.